

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道 I Career Development I	年次	1	実務経験	担当	小泉哲郎
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30			
		単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容業界の仕事、職種内容の理解を深め、職業選択を決める。また社会人に必要な身構え、気構え、心構えを身につける。					
到達目標	プロの職業人を目指すにあたり、美容業界に必要な基礎知識・業界情報を理解し、職業選択を決定する。 笑顔であいさつができるようになっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style		事前事後 学習と その内容	スケジュールを毎回確認していくので、必ず手帳に予定を書くことを癖づけてください。スケジュール管理も社会人基礎力に欠かせないものになります。		
教材	学生便覧・手帳・ポートフォリオ					
特記事項	必要事項はメモをとること					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	クラスを知る	自己紹介を通して、クラスメートのことを把握し、言葉の花束を贈る。
2	クラス目標	1年後の自分、クラスを創造し目標を決め、またクラスルールを自分たちで決める
3	グループワーク	グループワークを通して、自分の意見を伝えること・他者の意見を吸収することを学ぶ。
4	日常行動スコアシート	日常行動スコアシートで自分の特性を知る。
5	職業研究	美容業の職種(スタイリスト、ヘアメイク、ブライダル)を理解する。
6	プロの職業人を目指すにあたって	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する。
7	中間試験	入学してからを振り返り、学べたこと・今後身につけていきたい事をまとめる。
8	国際教育について	海外の美容業界を理解する。
9	プロの職業人を目指すにあたって	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する。
10	就職・実習に向けて今から準備すること、 重要事項を知る	就職・実習に向けて今から準備すること、重要事項を理解する。
11	プロの職業人を目指すにあたって	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する。
12	業界研究	自分が将来働くヘアメイク業界について知る。
13	アンガーマネジメント	アンガーマネジメントを体験することで、自分自身をセルフコントロールできるようになる。
14	業界研究	ヘアメイク業界について、色々な観点から調べ、業界を理解する。
15	定期試験	美容業界やプロの職業人についての知識をアウトプットすることが出来る。

科目名 (英)	導入教育 First Year Experience	年次	1	実務経験	担当	小泉哲郎
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30			
		単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的意識を高め、プロに必要なことが何か意識すること。					
到達目標	同じ目標を持った仲間との相互支援環境を作る					
評価方法	学則に定める評価とする。個人課題評価とグループ課題評価を統合し、評価する。評価記述はS(合格)、U(不合格)とする。導入教育の出席時間数が必要時間数に満たない者は、修了の認定を行わない。					
教科書	Hand-book of Life Style	事前事後 学習と その内容				
教材	学生便覧・手帳・ポートフォリオ					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介	自己紹介を通して、クラスメートのことを把握する。
2	他己紹介	伝える為の情報収集力、伝える為の伝達力を身につける。
3	学生便覧確認	学園、学校の規則を把握し、今後のスケジュールを理解する。
4	授業、教材説明	授業ルールと教材の意味を理解する。
5	授業の受け方	各科目で必要な事前情報を習得する。
6	キャリアサポートアンケート	自分のキャリアを見つめなおす。
7	進路決定振り返り	入学前の自分を振り返り、今後身につけていきたい事をまとめる。
8	進路決定振り返り	入学前の自分を振り返り、今後身につけていきたい事をまとめる。
9	ITリテラシー	インターネットセキュリティを学ぶ。
10	グループワーク	同じ目的目標をもった仲間とのグループワーク。
11	グループワーク	同じ目的目標をもった仲間とのグループワーク。
12	グループワーク	同じ目的目標をもった仲間とのグループワーク。
13	グループワーク	同じ目的目標をもった仲間とのグループワーク。
14	入学式に向けて	今後の流れを確認し、初回授業を迎える準備をする。
15	まとめ	導入教育で学んだ知識をアウトプットすることが出来る。

科目名 (英)	おもてなし Omotenashi	年次	1	実務経験	担当	石田智子
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30			
		単位	2			
講師紹介	百貨店などさまざまな接客サービスの現場経験から得た実体験を交えた講義を行う。個人技に近い「おもてなし」を自然に自分自身で学び取る構成なので、真剣に積極的な気持ちで毎授業参加すること。					
目的 科目概要	接客業に必要な「おもてなし」の心を育む。お客さまの快適と安心を心掛け、心の要求をかなえるだけでなく、常に満足を超えた感動を生み出せるおもてなしマスターとなるために、おもてなしの「心・型・スキル」を検定教本を通して体系的に学ぶ。					
到達目標	「おもてなしマスター」資格を取得する。 おもてなしのプロとして、顧客の声を聴き、観察し「相手が何を望むか」をさまざまな角度から自ら考え行動できる態度を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	「おもてなしマスター」資格検定教本		事前事後 学習と その内容	「おもてなしのプロ」としてふさわしい、笑顔、挨拶、姿勢、身だしなみ、言葉づかいを常に意識すること		
教材						
特記事項	毎授業「教本」とおもてなしノート(初回説明あり)、筆記用具一式を必ず持参すること。決められた席に座り、ワークの際は速やかに移動すること					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	科目オリエンテーション	講師自己紹介・科目オリエンテーション(授業ルール・評価について・資格検定についてなど)
2	「おもてなし」とは何か	日本における「おもてなし」と実例紹介・グループワーク「おもてなしとは」
3	おもてなしの心3つと基本となる型	教本におけるおもてなしの心3つの解説と、基本となる5つの型について
4	型1 事前調査	事前調査の必要性・傾聴スキルについての解説とグループワーク
5	型2 時間管理	時間管理とは・タイムルール(3時間・30分・3分ルール)・自身の時間管理について考える
6	型3 環境設定	五感と季節を意識した、お客さまにとって気持ちの良い空間準備について考える
7	中間試験	中間試験実施・終了後の解答解説から自身の課題を抽出をする
8	型4 場面演出	場面演出の目的・イベント演出のスキル・プレゼンテーションスキル(グループワーク)
9	型5 変化対応①	アサーション(さわやかな自己表現)の4つのタイプ・アサーションチェック
10	型5 変化対応②	ポジティブシンキング(グループワーク)・ストレスマネジメント力の養成について
11	5つのどの型にも有効な共通スキル①	4つの共通スキル・なぜなぜシンキング・KJ法・記述問題対策について
12	5つのどの型にも有効な共通スキル②	エゴグラムとエゴグラムチェック・コーチングとは・記述問題対策について
13	振り返りとまとめ	おもてなしマスター検定に向けて、最終的な準備を整える
14	過去問題及び記述問題対策	過去問題及び自己採点・理解できていない箇所の理解度を深める
15	定期試験	おもてなしマスター検定に合格する

科目名 (英)	メイクアップ I Make Up I	年次	1	実務経験	担当	足立 祐季
		授業形態	演習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	化粧品メーカーのイベント等や広告媒体の第一線で活躍している現役ヘアメイクアップアーティストが基礎マナーを初めとする道具の使い方、メンテナンス方法、ベーシックメイクスキルを教える。					
目的 科目概要	メイク製品の知識、道具の使い方、基礎となるプロセスを学ぶ。					
到達目標	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に25分以内にモデルの骨格に合ったフルメイクを美しく仕上げる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	毎授業持参する		事前事後 学習と その内容	専門用語、実技スキルが必要となる為実習後は授業内のメモ等を活用し技術の復習を行い、専門用語は必ず覚える事。		
教材	メイク道具一式、鏡、消耗品一式、汚物入れ、消毒用品、名札、筆記用具					
特記事項	肌が弱く教材が使用できない場合事前に報告をする。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	メイクアップツール、テーブルセッティング、メンテナンス方法を学ぶ	ブラシ、アイテム等の名称、役割、メンテナンス方法を学び、作業時の身だしを学習する
2	スキンケア、ベースメイク	美しいベースメイクに必要な下地、ファンデーションの塗布の仕方、コンシーラーを使ったトラブルカバーを覚える。
3	チーク、ハイライト、ローライト	顔の立体を理解し、血色づくりや凹凸感を出すのに必要なテクニックを覚える
4	アイシャドウ	目の形にあったシャドウの入れ方、美しいグラデーションの作り方、色の選択方法を覚える
5	アイライナー、アイラッシュ	ガタツキのない美しいラインの描き方、美しいカールを作るプロセスを覚える。角度に対しての印象の変え方、違いを覚える
6	アイブロウ、リップ	アイブロウの毛の生え方を理解し、美しく描く、唇の輪郭に合わせて美しくルージュを引く
7	中間試験	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に40分以内でモデルの骨格にあったフルメイクを美しく仕上げる
8	クレンジング	適切なクレンジングを覚え、スキンケア効果を高めるプロセスを学習する
9	ベースメイク強化	ベースメイクの仕上がりの完成度を上げる、コンシーラーワークの強化、コントロールカラーの強化
10	アイブロウ強化	左右対象によりグラデーションを強化しアイブロウの仕上がりを強化する
11	キュートメイク	キュートなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロウ、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する
12	クールメイク	クールなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロウ、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する
13	エレガントメイク	エレガントなイメージに合わせてアイメイク、チーク、アイブロウ、リップの形の使い分け、的確な色味や質感を理解する
14	タイムアップ練習	定期試験に向けてタイムアタックを行い、その中で道具の使い方や仕上がりの美しさにも気をつける習慣をつける
15	定期試験	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に25分以内でモデルの骨格にあったフルメイクを美しく仕上げる

科目名 (英)	ネイルケア&アート Nail Care & Art	年次	1	実務経験	担当	石澤 美沙
		授業形態	演習			
		時間数	60	有		
学科・コース	ヘアメイク科	単位	4			
講師紹介	トータルビューティーサロンにて、メイクアップ、ネイル、エステティック、アイラッシュを担当。技術、販売など接客に加えてスタッフの育成に貢献してきたのち、フリーランスのビューティシャンとして顧客へのサービスを提供する傍ら、専門学校において10年間の講師経験をもつ教員が、ヘアメイクを目指すために必要な基礎的専門知識、技術を習得するための授業を行う					
目的 科目概要	目的:JNECネイリスト技能検定試験3級に合格する 要:衛生的かつ効率的に施術をするためのテーブルセッティング、各種道具の扱い方を覚えたのち、二人一組での相モデルの体制で施術者、モデルの観点からネイルケア、ポリッシュカラーリング、フラットアートを学ぶ。					科目概
到達目標	ヘアメイクに必要なネイルの基礎を身につける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	JNAテクニカルシステムベーシック		事前事後 学習と その内容		技術においては知人・家族などへモデル協力を依頼し、可能な限り反復練習をすることが望ましい。	
教材	ネイル教材一式					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	道具の確認と下処理/テーブルセッティング/カットスタイル	・配布された道具の名称と用途を確認し、すぐに使用できる状態への下処理をする ・衛生的/効率的に作業するためのテーブルセッティングを覚える ・色々なカットスタイルを知る
2	ネイル概論/テーブルセッティングの確認/ファイリング	・爪の構造と働き ・ファイリング～道具の正しい持ち方、動かし方を習得し、チップを使ったファイリングを行う
3	ネイル概論/カラーリング	・ネイルの技術体系/ネイルケアの手順 ・カラーリング～道具の正しい持ち方、動かし方を習得し、チップを使ったカラーリングを行う ・ポリッシュのメンテナンスが出来るようになる
4	ネイル概論/トールペイント	・消毒法 ・ブラシワーク及びアクリル絵の具を使ったフラットアートの基本形を習得する
5	ネイル概論/カラーリング	・爪の病気とトラブル/皮膚科学 ・カラーリング及びポリッシュオフの手順とポイントを覚える
6	カラーリング/ファイリング	・カラーリング及びポリッシュオフの手順とポイントを覚える ・ラウンドの特徴を理解し、モデルを使ったファイリングを行う
7	中間試験	・ポリッシュカラーリング 25分 / 10本揃ったファイリングが出来るようになる
8	キューティクルクリーン	・プッシュアップ、バックとキューティクルニッパーの扱いを習得する
9	ネイルケア	・手順を再確認し、ファイリング～キューティクルクリーンまで通して出来るようになる
10	カラーリング&アート ※課題提出	・美しいカラーリングが出来るようになる ・モデルの爪にペイントアートを施し、パーツの効果的な活用方法を知る
11	ケアカラー	・時間を意識し、ケアカラーが通して出来るようになる ・苦手の克服
12	ケアカラー	・時間を意識し、ケアカラーが通して出来るようになる ・苦手の克服
13	ケアカラー タイムトライアル	・ケアカラー&アート(ポリッシュオフ込み) 70分
14	ケアカラー タイムトライアル	・ケアカラー&アート(ポリッシュオフ込み) 70分
15	定期試験	定期試験

科目名 (英)	ヘアスタイリング I Hair Styling I	年次	1	実務経験	担当	小野寺 舞 福島 裕司
		授業形態	演習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	現役としても活動している教員が、美容のスペシャリストを育成する為、美容知識、技術、経験の基礎と応用を習得する授業を行う。スタイルを作る方法は様々で、皆さんそれぞれに合った学び方で技術を習得出来るよう指導を行う。					
目的 科目概要	目的:ヘアアレンジ、ブローを行う為に必要な基礎技術、道具の使い方を学ぶ。 概要:この科目ではウィッグを使い実際に自身の仕上がりを確認することにより、回数を重ね基礎技術を身に付ける。 全てのアレンジを行う上で欠かせない共通する技術である。					
到達目標	ヘアアレンジ、ブローの基礎テクニックを習得し、さまざまなアレンジに応用する事が出来る。 術者としてのマナー、心構えを習得する。 専門的な知識を学び、指定された技術をスムーズに作る事が出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	プリント	事前事後 学習と その内容	実習後、次の授業までに復習し、より確実に身に付ける事が望ましい。			
教材	ヘア道具一式					
特記事項	実技がメインとなる授業の為、遅刻欠席は出来るだけせず、毎授業において手順等の内容は必ずメモを取り復習すること。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	道具の使い方・ブロー①・スライス・ゴムの結び方	この授業での今後の流れを把握し、目標を立てる。道具の使い方や名称を覚え、扱いに慣れる。
2	復習・ピン打ち・ブロッキング	前回は行った技術を復習(ブロー・スライス・ゴム)し、習得する。新たに学んだ技術のやり方を覚え、習得に繋げる。
3	復習・コテ巻き	前回までに行った技術を復習(ブロー・ピン打ち・ゴム)し、習得する。新たに学んだ技術のやり方を覚え、習得に繋げる。
4	復習・編み込み①・ツイスト	前回までに行った技術を復習(ブロー・ピン打ち・ゴム、コテ巻き)し、習得する。新たに学んだ技術のやり方を覚え、習得に繋げる。
5	復習・編み込み②	前回までに行った技術を復習(ブロー・ピン打ち・ゴム、編み込み)し、習得する。新たに学んだ技術のやり方を覚え、習得に繋げる。
6	1回～5回までの復習、試験対策	前回までの技術を復習し、苦手な箇所を確認する。中間試験に向け技術向上に繋げる。
7	中間試験	7回までの技術習得度を確認する。フィードバックから今後の目標を立てる。
8	ホットカーラー・抱き合わせ・ブロー②	夜会巻きを作るベース作りを学ぶ。新たにロールブラシでのブローを習得する。
9	復習・夜会巻き①	前回までに行った技術を復習(ブロー・ホットカーラー)し、習得する。新たに学んだ夜会巻き基礎技術のを覚え、習得に繋げる。
10	復習・夜会巻き②	前回までに行った技術を復習(ブロー・ホットカーラー、夜会巻き土台作り)し、習得する。新たに学んだ夜会巻き技術のを覚え、習得に繋げる。
11	復習・夜会巻き③	前回までに行った技術を復習(ブロー・ホットカーラー、夜会巻きベース作り)し、習得する。新たに学んだ夜会巻き技術のを覚え、習得に繋げる。
12	ハーフアップスタイル	前回までの技術を生かし、ハーフアップスタイルを仕上げる。
13	アップスタイル	前回までの技術を生かし、アップスタイルを仕上げる。
14	復習・夜会巻き④、試験対策	前回までの技術を復習し、苦手な箇所を確認する。中間試験に向け技術向上、スピードアップに繋げる。
15	定期試験	14回までの技術習得度を確認する。フィードバックから後期の目標を立てる。

科目名 (英)	メイクアップ総論 I General Make up I	年次	1	実務経験	担当	大和田一樹
		授業形態	演習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	メイクアップアーティストとしてスチール、ショーのメイクアップ、またメイクアップディレクターとして化粧品の開発・プロデュース・メイクセミナーの講師、自らTV出演など化粧品とメイクアップに関する様々な業務を歴任してきました。ここではメイクアップに必要な専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行います。					
目的 科目概要	目的:メイクアップに関するマナー、専門知識、ナチュラルメイクの基礎的な技術を学ぶ。 科目概要:メイク基礎を学びJESCメイクアップアーティスト検定に合格できるようになる。					
到達目標	正しいメイクアップのマナーとセッティングの仕方を習得する 正しい化粧品の使用方法を理解し、限られた時間内でナチュラルメイクを仕上げることができる。 パーツごとにナチュラルメイクの正しい技術を習得することができる。 バランスの良いナチュラルメイクを仕上げることができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Make up foundation 1	事前事後 学習と その内容	メイクアップは細かいプロセスが多いため、毎回必ずノートを取ることを。			
教材	学校指定のメイクアップ教材					
特記事項	7回目と14回目の授業時にコマシラパスの提出をしていただき、その提出状況を課題点とします。					

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	マナー・セッティング・スキンケア	正しいセッティングの仕方を習得する メイクアップの様々なマナーを理解する スキンケアの手順を理解する
2	前回の復習/ベースメイク	セッティング～マナーの確認、スキンケア復習。正しいセッティングの仕方を習得する スキンケアの手順を習得する。 ベースメイクの種類と特長、作り方を理解する。
3	前回の復習/アイブロウ	スキンケア～ベースメイク復習。スキンケアの手順を熟練する。 ベースメイクの作り方を習得する。 アイブロウアイテムの種類と特長、描き方を理解する。
4	前回の復習/アイメイク	事前にベースメイクを作っておく。アイブロウ復習。ブラシを使ったアイシャドウの付け方、グラデーションの出し方、アイラインの引き方、ビューラーの使い方、マスカラの付け方を学ぶ。
5	前回の復習/リップ・チーク	事前にベースメイクを作っておく。アイブロウおよびアイメイク復習。アイメイクの仕方を習得する。 リップラインの描き方を理解する。チークの付け方を学ぶ。
6	1～5回まで授業の振り返りと中間試験トレーニング	1～5回目までの総復習。時間に入ることと完成度のバランスを上げることを目指す。
7	中間試験	フルメイク(35分)メイクアップの正しいマナー・セッティングを習得する。 フルメイクを時間内(35分)に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。
8	フルメイク	フルメイク(35分)メイクアップの正しいマナー・セッティングを習得する。 フルメイクを時間内(35分)に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。
9	ゴールデンプロポーションとシェーディング	フェイスプロポーションを計測し顔のパーツの配置の違いを理解する。顔の黄金比を知り、美しいパーツ配置のバランスを理解する。ハイライトとシャドウによるベースメイクの立体感の付け方を学ぶ。
10	アイブロウの形を変えて描く	シェーディングを含めたベースメイク。過不足無い自然な立体感のあるシェーディングを習得する。自然に長く・短く、太く・細くするアイブロウの描き方を理解する。
11	アイシャドウの横グラデーション	自然に長く・短く、太く・細くするアイブロウの描き方を習得する。 縦グラデーションと横グラデーションの違いと特徴を理解する。
12	立体的リップとグラデーションリップ	横グラデーションのアイメイクを習得する 立体的なリップラインの描き方を理解する グラデーションを活かしたリップラインの描き方を理解する
13	立体的なチーク	立体的なリップラインの描き方を習得する グラデーションを活かしたリップラインの描き方を習得する 立体的なチークの入れ方を理解する
14	フルメイク	時間内(30分)でフルメイクができるスピーディに仕上げる技術を習得する 定期試験の注意事項を確認する
15	定期試験	フルメイク(30分)メイクアップの正しいマナー・セッティングを習得する。 フルメイクを時間内(30分)に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。

科目名 (英)	着付く(初伝)〈中伝〉 Kimono Dressshing	年次	1	実務経験	担当	中澤藤子 岡野暢子 伊丹春菜
		授業形態	講義・実習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60			
		単位	4			
講師紹介	長きに渡り全国で着物着付師・着物講師の指導にあたり、自らもホテル・レストラン等と和装ブライダルの第一線で花婿・花嫁の演出を手掛ける教員が、日本の誇れる文化である着物の冠婚葬祭での基礎知識をわかりやすく解説し、伝統を継承しながらも現代のニーズに応えられる上質の和装着付の技術をお伝えします。					
目的 科目概要	目的: 器具等を使用しないどのような現場でも通用する着付技術を学ぶ。山野流着装(初伝)〈中伝〉資格取得を目標とする。 概要: 前半では着物に親しみ浴衣から小紋までを一人で着る着付の基礎を学び、後半ではミスの第一礼装の振袖、ミセスの第一礼装の留袖の知識と格式にあった着付技術を学ぶ。					
到達目標	〈初伝〉 ・1人で着る着付: 小紋の着付と名古屋帯のお太鼓結び ・着物の本だたみと長じゅばんのたたみ方		〈中伝〉 ・お客様の着付: ミセスの第一礼装 ・黒留袖の着付と袋帯で結ぶ二重太鼓の帯結び ・着物の本だたみ			
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	一般財団法人国際美容協会発行のきもの着つけ教本		事前事後 学習と その内容	事前に教科書・インターネット等で浴衣を調べてイメージしてみてください。 事後は教科書を復習し着物の名称を正しく覚えましょう。		
教材	学校貸出: 浴衣・小紋・細帯・名古屋帯・長襦袢・帯揚げ・帯締め					
特記事項						

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	浴衣の歴史・知識の説明	着物の名称を覚える 下着・紐・小物の用い方を覚える 着付前の準備の仕方 浴衣の着付の展示説明
2	浴衣の着付と帯結び	着付前の準備の仕方 復習 浴衣の着付と帯結び P17～P29 浴衣の本だたみ
と	小紋と名古屋帯の知識	着付前の準備 足袋・下着・タオル・肌着の着付 長襦袢の着付(伊達締めまで) 長襦袢のしまう時のたたみ方説明→実技
4	名古屋帯・小紋の準備の仕方・小紋の着付	準備の仕方 小紋の着付(伊達締めまで) 実習 長襦袢と小紋のしまう時のたたみ方
5	小紋の着付と帯結び	準備の仕方から小紋の着付(伊達締めまで) 実習 名古屋帯の一重太鼓の帯結び-展示同時実習
6	小紋の着付と名古屋帯で結ぶ一重太鼓の帯結び	準備の仕方から小紋の着付(伊達締めまで) 実習 名古屋帯の一重太鼓の帯結び帯締め・帯揚げの整え方 展示同時実習
7	着付総仕上げ 小紋の着付と名古屋帯の一重太鼓の帯結び	小紋の着付と名古屋帯で結ぶ一重太鼓の帯結びを仕上げる 長襦袢と着物の本だたみ
8	中間試験 準備の仕方から一人で着る着付 衣装のしまい方まで	小紋の着付と名古屋帯で結ぶ一重太鼓の帯結びを帯締め・帯揚げまで仕上げる 着物の本だたみと長襦袢のたたみ方まで
9	ミスの第一礼装・振袖について	ミスの第一礼装・振袖についての知識を覚える 体型補正～長襦袢の着付～振袖の 着付まで P84 展示同時実習 2人1組相モデル 振袖のしまう時のたたみ方
10	ミスの第一礼装・振袖について	振袖の着付と帯結び・二枚扇の結び方を覚える 展示同時実習 2人1組相モデル
11	ミスの第一礼装・振袖について	振袖の着付と袋帯使用の二枚扇の帯結び 2人1組→交代して仕上げる
12	ミセスの第一礼装・留袖について	ミセスの第一礼装・留袖についての知識を覚える 黒留袖の着付(伊達締めまで)展示の実習 2人1組相モデル
13	ミセスの第一礼装・留袖について	黒留袖の着付と帯結び・袋帯使用の二重太鼓 2人1組相モデル
14	着付総仕上げ: お客様の着付	ミセスの第一礼装・黒留袖の着付と二重太鼓 礼装用の帯あげと帯じめの整え方 2人1組交代で実習 仕上げる
15	定期試験 中伝資格試験	実技試験: お客様の着付け(第一礼装) 黒留袖の着付と袋帯使用の二重太鼓を仕上げる 2人1組相モデル

科目名 (英)	ビューティ技術論 I Beauty technical I	年次	1	実務経験	担当	小泉哲郎
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	有		
		単位	2			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術を学ぶ。					
到達目標	最新の美容を知り、業界を流行を知る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style		事前事後 学習と その内容			
教材						
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	アーティストの技術を学ぶ①	プロの技術を身に付ける。 アシスタントとして必要なセルフマネジメントについて知る。
2	アーティストの技術を学ぶ②	プロになる為のフローを知る。 デビューまでのイメージをつけることができる。
3	アーティストの技術を学ぶ③	プロの技術を身に付ける。 アシスタントの立場でのチームマネジメントとは何かを考える。
4	トップサロンゼミ①	最前線で活躍するヘアメイクアーティストからのデモンストレーションと業界講話
5	グループワーク①	現場におけるチームワークをグループで共有する
6	グループワーク②	現場におけるチームワークをグループで共有する
7	プレゼンテーション①	ヘアメイクにおけるチームとは何か発表する
8	コンテスト対策①	デザインを想像する
9	コンテスト対策②	デザインを創造する
10	コンテスト対策③	デザインを平面に起こす
11	コンテスト対策④	デザインを立体にする
12	コンテスト対策⑤	デザインをヘアメイクにおこす。
13	コンテスト対策⑥	制作する
14	コンテスト対策⑦	制作する
15	コンテストフィードバック	コンテストでのデザインを発表、共有する。

科目名 (英)	アシスタントプログラム I Assistant Program I	年次	1	実務経験	担当	佐藤 直雅
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	有		
		単位	2			
講師紹介	自身もヘアメイクアーティストとして活躍しながら、ヘアメイク事務所やサロンも運営する講師から業界最先端の知識を伝える。					
目的 科目概要	業界即戦力の知識、技術、マインドを伝える。					
到達目標	現場即戦力となりうる技術、知識、マインドを習得し、現場で活躍できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容			
教材	筆記用具					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	アシスタントプログラムとは①	自己紹介を通して、将来を想像する。
2	アシスタントプログラムとは②	今後の流れと現場でデビューのついて学ぶ。
3	業界について①	テレビやCM等の現場ジャンルと専門用語等を学ぶ。
4	業界について②	テレビやCM等の現場ジャンルと専門用語等を学ぶ。
5	アシスタントの動きについて①	アシスタントとして持ち物と動きを学ぶ。
6	アシスタントの動きについて②	アシスタントとして持ち物と動きを学ぶ。
7	中間試験	アシスタントの動き等をまとめ、発表する。
8	アシスタントの動きについて③	一歩先に行くヘルプを学ぶ。
9	アシスタントの動きについて④	一歩先に行くヘルプを学ぶ。
10	現場別のアシスタント対策①	現場ごとに注意する点を理解し、どんな現場でもスムーズに動けるようになる。
11	現場別のアシスタント対策②	現場ごとに注意する点を理解し、どんな現場でもスムーズに動けるようになる。
12	現場別のアシスタント対策③	現場ごとに注意する点を理解し、どんな現場でもスムーズに動けるようになる。
13	アーティスト講話①	アーティストの生い立ちからデビュー、その後のワークを学び、将来のイメージと合わせる。
14	アーティスト講話②	アーティストの生い立ちからデビュー、その後のワークを学び、将来のイメージと合わせる。
15	定期試験	アシスタントの意味をまとめ、発表する。

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道 II Career Development II	年次	1	実務経験	担当	小泉哲郎
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30			
		単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容業界の仕事、職種内容の理解を深め、職業選択を決める。また社会人に必要な身構え、気構え、心構えを身につける。					
到達目標	プロの職業人を目指すにあたり、美容業界に必要な基礎知識・業界情報を理解し、職業選択を決定する。 笑顔であいさつができるようになっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style		事前事後 学習と その内容	スケジュールを毎回確認していくので、必ず手帳に予定を書くことを癖づけてください。スケジュール管理も社会人基礎力に欠かせないものになります。		
教材	学生便覧・手帳・ポートフォリオ					
特記事項	必要事項はメモをとること					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	ワクワクホーム	情報がたくさんある時代に必要な情報だけをを集められるようになる。
2	就職スケジュール・履歴書・面接対策	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
3	自己紹介の練習	自己紹介の練習を行い、他人から見た自分の姿を把握する。
4	履歴書の免許・資格の書き方	履歴書の免許・資格の書き方を理解し、求人票の見方を学ぶ。
5	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
6	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
7	中間試験	面接対策で今後自分に何が必要かを理解する。
8	面接対策	面接対策で今後自分に何が必要かを理解する。
9	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
10	面接ロールプレイ	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
11	面接ロールプレイ	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
12	電話のかけ方	電話のかけ方を学び、印象の良い電話対応が出来るようになる。
13	面接先や説明会会場での所作	面接先や説明会会場での所作を学び、印象の良い対応が出来るようになる。
14	就職対策	春休みの就職活動について理解し、主体的に活動をするための手段を理解知る。
15	定期試験	履歴書の完成を通して、就職活動の準備を整える。

科目名 (英)	ヘアメイク I hair make up I	年次	1	実務経験	担当	長尾 建
		授業形態	演習			
		時間数	60	有		
学科・コース	ヘアメイク科	単位	4			
講師紹介	ヘアメイクアップアーティストとして雑誌・ドラマ・映画・CM・TV・ブライダルなど様々な現場を経験してきました。これまでの経験からそれぞれの現場で役立つ基礎的な技術・知識をお伝えします。					
目的 科目概要	目的: 仕事の現場で必要とされるヘアメイクの基礎技術、知識を学ぶ。 概要: この科目では多様なシチュエーションに必要な技術の違いを知り演習形式で学んでいく。					
到達目標	授業で学んだ技術、知識を理解し、実際に対人で行う事ができる。 自分の得意な技術の傾向、好きなヘアメイクのジャンルを知る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書						
教材	ヘア道具・メイク道具一式	事前事後 学習と その内容	ヘアメイクやファッションのトレンドの情報収集を普段から行う様にしてください。授業で取り入れて欲しい内容がありましたらできる限り検討していきたいと思います。			
特記事項	他の科目でもメイクを行う事が多いので肌のコンディションを損なわない為に普段もスキンケアに努めて下さい。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	技術チェック(メイク)	前期までのメイクの技術チェックを行い、今後のテーマメイクのスケジュールの見通しの確認を行う。
2	技術チェック(ヘア)	前期までのヘアの技術チェックを行い、今後のヘアテクニックのスケジュールの見通しの確認を行う。
3	テーマ別メイク①	ヘアメイクの現場で役立つ知識、立ち振る舞い、道具のセッティングを学ぶ。 基礎的なスキンケアからより高保湿なテクニックを応用したベースメイクを学ぶ。
4	ヘアテクニック①	前期学んだテクニックの復習を重点的に行う。ヘアアイロンや編み込みなどの基礎的な技術のタイム短縮を目指す。
5	テーマ別メイク②	スキンケアとベースメイクの復習とアイメイクとアイブロウメイクの理論、技術を学ぶ。
6	ヘアテクニック②	トレンドを取り入れたダウンスタイル、ハーフアップスタイルを4パターン練習する。
7	中間試験対策	定期試験に向けてテーマに沿ったヘアメイクをデザインし各自練習する。
8	中間試験	決められたテーマに沿ったヘアメイクを行う。
9	テーマ別メイク③	顔の骨格を知り、骨格に合ったポイントメイクの入れ方を学ぶ。
10	ヘアテクニック③	アップヘアのバランスを学ぶ。頭部の骨格に合った位置でスタイルが仕上げられる様にする。
11	テーマ別メイク④	成人式などのメイクに役立つ作りこみメイクを学ぶ。ポイントメイクのアクセントを理解する。
12	ヘアテクニック④	成人式などに応用できるヘアスタイルを練習する。髪の長さに応じた提案ができるようになる。
13	ヘアメイク演習	相モデル形式で相手の要望に沿ったヘアメイクを提案し施術する。ヘアメイク中の時間配分も各自決め、段取りの良いメイクをできる様にする。
14	定期試験対策	定期試験に向けてテーマに沿ったヘアメイクをデザインし各自練習する。
15	定期試験	決められたテーマに沿ったヘアメイクを行う。

科目名 (英)	ファッションコーディネート Fashion	年次	1	実務経験	担当	坂田 依智子
		授業形態	演習			
		時間数	30			
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2			
講師紹介	ウェディングスタイリストとして15年間、ドレスショップや式場、ホテルの現場で婚礼衣装業務、また責任者として部下の育成にも携わってきました。その現場での経験を伝えながら、知識やスキルの指導を行います。					
目的 科目概要	目的:ヘアメイクアーティストとして必要なファッションからヘアメイクまでトータルコーディネートの重要性を学ぶ。 概要:フォーマルウェアの基礎知識、新郎新婦の洋装の着付けのスキル、アテンドを学ぶ。					
到達目標	ウェディングファッションの基礎知識を習得し、新郎新婦の洋装を正しく着付けすることができる。 スムーズにアテンドができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	JWSAIWEDDING FASHION JWSA指定スキルチェックノートブック	事前事後 学習と その内容	毎回の授業内容の復習をし、よく理解した上で実技の演習を受けてください。			
教材	衣裳、小物類 等					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	ウェディングファッションとは	結婚に関する儀式を理解し、ウェディングファッションについて学ぶ。
2	フォーマルウェアの知識	衣服の概念を理解し、フォーマルウェアの格式、装いの知識を学ぶ。
3	新婦の洋装の知識	ドレスの歴史、ドレスの種類・ディテール・サイズを学ぶ。
4	ドレスの扱い方・着付け	ドレスの扱い方を学ぶ。ドレスのフィッティングテクニックを理解し、実践する。
5	ドレスの着付け・アテンド	ドレスのフィッティング練習。アテンドテクニックを学ぶ。
6	ドレスの着付け	中間試験に向けて、試験で使用するドレスを決め、相モデルでドレスのフィッティング練習。
7	中間試験	実技試験:ドレスのフィッティング
8	新郎の洋装の知識	新郎の洋装の歴史、メンズフォーマルの種類・ディテール・サイズを学ぶ。
9	メンズフォーマルの着付け	メンズフォーマルの扱い方を学ぶ。メンズフォーマルのフィッティングテクニックを理解し、実践する。
10	メンズフォーマルの着付け	メンズフォーマルのフィッティング練習。ネクタイの結び方を学ぶ。
11	新婦の洋装の知識	第3回の授業内容の復習。ドレスの小物について学ぶ。
12	新婦の洋装のトータルコーディネート提案	新婦の洋装のトータルコーディネートのテーマを決め、コンセプトシートを作成する。
13	新婦の洋装のトータルコーディネート実践	前回作成したコンセプトシートをもとに、新婦の洋装のトータルコーディネートを実践する。
14	期末試験に向けて総復習	スキルチェックノートブックの問題を解いて、理解度を確認する。
15	定期試験	筆記試験

科目名 (英)	デザイントレーニング Design Training	年次	1	実務経験	担当	山内 ひとみ 堀江 知代
		授業形態	演習			
学科・コース	ヘアメイク	時間数	60			
		単位	4			
講師紹介	日本画を学びながら長年デッサン講師として指導をし、美容を目指す人の個性の中に美意識を感じてきました。その意識を具現化出来るように取り組みます。国内、外資系の化粧品ブランドで15年以上の経験を持つ講師が現場で培ったクリエイティブなヘアメイクも取り入れていきます。					
目的 科目概要	自ら描けるようデザインの基本を学ぶ。 自分の頭の中でイメージしたものをどのようにヘアメイクとして落とし込んでいくのか作品をつくる上で考える力、バランス力を培う。					
到達目標	自らのイメージをスタイル画にデザインする。 与えられたテーマに沿って自分のオリジナリティを加えた作品作りができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容			
教材	クロッキー帳・鉛筆・メイクパレット・練り消しゴム、鏡					
特記事項	初回授業までに鉛筆のみ削ってください					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	線 面 立体	線練習..線の感情をしり .円. 楕円美しい描き方 立体の光と影グラデーションを学ぶ。 頭部の立体を学び相モデルデッサンで顔、頭部の立体感を学ぶ。
2	顔のパーツバランス	顔縦3等分 横3等分バランス 顔のパーツの造りと立体を理解しデッサンする。 自画像を描く事により顔のバランス立体感を学ぶ。
3	スタイル画(フェイス)	眉目鼻口の向きを考えて描く(正面、横、斜め) 顔の向きと卵型(輪郭)の違いを知り 相モデルで輪郭の確認する。
4	メイクデザイン	スタイル画にイメージ変えたデザインする、デザインにシルエットでヘアスタイルをデッサンする。色のイメージ バランスを考えたアイメイクデザインする。
5	ヘアスタイルをデッサンする	頭部を頭蓋で学び髪の流れ(タッチ)を知る。 相モデルでヘアスタイルをシルエットとタッチ組み合わせで描く。
6	8頭身・10頭身スタイル画デッサンする	人体のバランスを知り相モデルデッサン。 8頭身バランスで時代の流行ファッションを描く・10頭身でブライダルスタイル画を描く。
7	スタイル画向きと重心	重心、向きを意識して舞台衣装を描く。 中間テスト/スタイル画メイク・ヘアスタイル・ファッションスタイル画。
8	デザインとは何かを考える	身近なデザイン・アイデアを使ったヘアメイクを考え、感性や創造性を養う。 自分で決めたテーマを自由にヘアメイクデザインシートを書く。
9	コレクションヘアメイクⅠ 有名デザイナーから学ぶデザイン	組み立て手順・デザインシートを書きヘアメイクデザインを作るⅠ
10	コレクションヘアメイクⅡ 有名デザイナーから学ぶデザイン	組み立て手順・デザインシートを書きヘアメイクデザインを作るⅡ
11	作りこみヘアメイクⅠ メイクブランドから学ぶデザイン	イメージをふくらませ、ヘアメイクデザインを作るⅠ
12	作りこみヘアメイクⅡ 花・木・陸からデザインをつくる	イメージをふくらませ、ヘアメイクデザインを作るⅡ
13	作りこみヘアメイクⅢ 空・海・太陽からイメージしデザインをつくる	イメージをふくらませ、ヘアメイクデザインを作るⅢ
14	課題シートを作成・完成させる 【自然の危機と美しさ】	課題のデザインシートを完成させ、イメージしたヘアメイクを練習する。
15	定期試験	イメージヘアメイクを指定時間内に完成させる。

科目名 (英)	メイクアップ総論 General Make Up II	年次	1	実務経験	担当	高岸裕一
		授業形態	講義・演習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	CAA化粧品販売員検定協会の理事、ヘアメイク事務所の代表を務め、コレクションやメイクショー など大手ブランドにて数多くの現場経験をしている講師。					
目的 科目概要	メイクアップアーティスト・ヘアメイクアーティストとして必要な技術力・知識力・販売力を身につける。CAA全国化粧品販売員検定協会ブロンズ資格を取得する。					
到達目標	CAA全国化粧品販売員検定協会のブロンズ資格を取得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	CAA全国化粧品販売員検定協会公式テキスト		事前事後 学習と その内容	化粧品販売員検定取得する事により現場のOJTやブランド就職先のアプローチに繋がる。		
教材	メイク道具一式					
特記事項	授業前にメイク道具をセッティング					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介・化粧品業界の動向とブランド分析	自己紹介・化粧品業界の動向・ブランド分析 実技:ブランドメイク(セルフ)
2	化粧品学(基礎)①スキンケアアイテム	基礎化粧品の分類と特徴 実技:色相Yイエローベースメイク
3	化粧品学(基礎)②メイクアップアイテム	仕上げ用化粧品の分類と特徴 実技:色相Bブルーベースメイク
4	接客販売①&タッチアップ	化粧品販売員の役割・心構え・ホスピタリー・身だしなみ・パーソナルスペースなど 実技:明度Lライトトーンメイク実技
5	接客販売②&タッチアップ	お客様の分類・集客・売上・販売行動・アプローチ・クロージングなど 実技:明度D:ディープトーンメイク実技
6	化粧品販売員検定ブロンズ 模擬テスト	ブロンズ模擬テスト 実技:彩度Vビビットカラーメイク
7	化粧品販売員検定ブロンズ試験	化粧品販売員検定ブロンズ試験 実技:彩度Sソフトカラーメイク
8	中間試験	化粧品販売員検定ブロンズ中間試験
9	色彩①&タッチアップ	色彩学①・メイクアップカラーアドバイス 実技:4シーズンカラー スプリングメイク
10	色彩②&タッチアップ	色彩学②・メイクアップカラーアドバイス 実技:4シーズンカラー サマーメイク
11	メイクアップカラーアドバイザー①&タッチアップ	メイクアップカラーアドバイザー① 実技:4シーズンカラー オータムメイク
12	メイクアップカラーアドバイザー②&タッチアップ	メイクアップカラーアドバイザー② 実技:4シーズンカラー ウィンターメイク
13	4シーズン似合わせ&タッチアップ	4シーズンカラーメイク 実技:似合わせメイク
14	定期試験対策	定期試験対策 実技:4シーズンカラーメイク
15	定期試験	定期試験 実技:4シーズンカラーメイク

科目名 (英)	メイクアップⅡ Make up	年次	1	実務経験	担当	大和田一樹
		授業形態	演習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有		
		単位	4			
講師紹介	メイクアップアーティストとしてスチール、ショーのメイクアップ、またメイクアップディレクターとして化粧品の開発・プロデュース・メイクセミナーの講師、自らTV出演など化粧品とメイクアップに関する様々な業務を歴任。メイクアップに必要な専門的な理論と技術を習得する授業を行います。					
目的 科目概要	目的:メイクアップデザインに関する専門的な理論と技術を学び、メイクアップイメージを作り上げる。 科目概要:形・色彩・質感が持つイメージを学び、それを組み合わせることでメイクアップイメージを表現できることを理解する。					
到達目標	形・色・質感を変化させ組み合わせることでメイクアップイメージを作り上げることができる。 限られた時間内で様々なメイクアップを仕上げることができる。 様々なメイクアップ表現に必要な専門的な技術を習得することができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	メイクアップは細かいプロセスが多いので、毎回必ずノートを取ることを。授業で使用したスポンジ・パフなどは毎回必ず洗浄すること。		
教材	学校指定のメイク教材					
特記事項	7回目と14回目の授業時にコマシラバスの提出し課題点とする。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	フルメイク	フルメイクをしてみて今の段階での得意・不得意を知ることができる。
2	直線メイク	メイクアップで各パーツの直線的なラインの描き方を習得する。
3	曲線メイク	メイクアップで各パーツの曲線的なラインの描き方を習得する。
4	上昇メイク	メイクアップで各パーツの上昇的なラインの描き方を習得する。
5	下降メイク	メイクアップで各パーツの下降的なラインの描き方を習得する。
6	中間試験演習 フルメイク	フルメイクを時間内に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。 中間試験の注意点を確認する。
7	中間試験 フルメイク	フルメイクを時間内に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。【配点20点】
8	フルメイク	1～7週までの振り返り。フルメイクを時間内(40分)に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。 テーマに沿ったフルメイクがバランス良く仕上げることができる。
9	質感別メイク ツヤとマット	メイクアップにおける質感ツヤとマットに見せるテクニックを習得する。 メイクのイメージの違いに合わせて質感を選択することができる。
10	イメージメイク①「キュート」	形・色・質感の組み合わせでメイクアップをキュートに作り上げることができる。
11	イメージメイク②「クール」	形・色・質感の組み合わせでメイクアップをクールに作り上げることができる。
12	イメージメイク③「エレガント」	形・色・質感の組み合わせでメイクアップをエレガントに作り上げることができる。
13	撮影実習のためのデザインシート作成	ヘア・メイク・衣装・小物などトータルで創作し、デザインシートに起こすことができる。
14	定期試験の練習 撮影実習のための作品制作	スチール撮影のためのフルメイクを習得する。 時間内にフルメイクができるスピーディに仕上げられる技術を習得する。 定期試験の注意事項を確認する。
15	定期試験	撮影のためのフルメイクができる 時間内でフルメイクができる【配点50点】

科目名 (英)	ヘアスタイリングⅡ Hair Styling Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	福島 裕司
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・コース	ヘアメイク科	単位	4	有		
講師紹介	美容業界で20年以上関わり、CMや舞台、雑誌のヘアメイクなど、お客様のキレイの基準向上に取り組んでいる。セミナーや教育など様々な現場で美の提供をしながら活動している教員が、美容のスペシャリストを育成する為、美容知識、技術、経験の基礎と応用を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	ヘアアレンジする為の様々なヘアスタイルの種類を学び、応用のヘア技術を修得する。 実用性～ファッション性の高いヘアスタイルを学び美容の分野で活躍し、自分自身及びお客様までのトータルバランスをイメージ出来るようになる。 その為のヘアアレンジの技術力、表現力を身に付ける。					
到達目標	自分自身及びお客様までのトータルバランスをイメージ出来るようになる。 その為のヘアアレンジの技術力、表現力を身に付ける。 ファッション性の高いヘアスタイルをつくる事が出来る					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 作品					
教科書				事前事後 学習と その内容	美容業界は流行の流れが速い為、常に雑誌やネットで情報を調べて予習しておく事。演習後は技術の復習をし、より確実に身に着ける事が望ましい。	
教材						
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	編み込みスタイル①アップスタイル①	技術演習を行い、ヘアメイクの基礎を再確認して編み込みのテクニックを利用してアップスタイルを完成させる
2	ホットカーラー アップスタイル②	ホットカーラーの種類を学ぶ、顔周りのヘアでイメージの違いを理解できるようにする
3	表面をデザインする①	デザイン性の高いスタイルを学んでスタイルを作成する イラスト含む
4	映像鑑賞	アート性のある映像を鑑賞して表現力、創造力を高める
5	表面をデザインする②	デザイン性の高いスタイルを学んでスタイルを作成する イラスト含む
6	表面をデザインする②	デザイン性の高いスタイルを学んでスタイルを作成する イラスト含む
7	中間試験	ホットカーラー巻き・デザインスタイルの応用スタイルを考えて作成する
8	アップスタイル	アップスタイルを2スタイル学び 作成する イラスト含む
9	相モデル実習①	1人3スタイルを提案してスタイリング
10	夜会スタイル イラストの大切さ	お互いの要望に合わせたスタイルを仕上げる イラスト+1スタイル(ウィッグ使用)
11	クリエイティブヘア①	アートなヘアスタイルを学び、作成する。
12	クリエイティブヘア②	アートなヘアスタイルを学び、作成する。
13	相モデル実習②	相モデルでテーマに合わせたヘアスタイルを作成する
14	ファッションヘア	テーマに合わせて自由なヘアスタイルを作成する
15	定期試験	今まで学んだ事を活かして 各自テーマを付けて自由にヘアスタイルを作成する

科目名 (英)	アシスタントプログラムⅡ Assistant Program Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	佐藤 直雅
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	有		
		単位	1			
講師紹介	自身もヘアメイクアーティストとして活躍しながら、ヘアメイク事務所やサロンも運営する講師から業界最先端の知識を伝える。					
目的 科目概要	業界即戦力の知識、技術、マインドを伝える。					
到達目標	現場即戦力となりうる技術、知識、マインドを習得し、現場で活躍できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容			
教材	筆記用具					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	実践ワーク①	現場ロールプレイを行うことで、現場での動きの確認を行いながら、次の行動を予想できるようになる。
2	実践ワーク②	現場ロールプレイを行うことで、現場での動きの確認を行いながら、次の行動を予想できるようになる。
3	実践ワーク③	現場ロールプレイを行うことで、現場での動きの確認を行いながら、次の行動を予想できるようになる。
4	実践ワーク④	現場ロールプレイを行うことで、現場での動きの確認を行いながら、次の行動を予想できるようになる。
5	業界講話①	ファッション業界(ランウェイ)について学ぶ
6	業界講話②	ファッション業界(ランウェイ)について学ぶ
7	中間試験	アシスタントの動き等をまとめ、発表する。
8	業界講話③	映画、ドラマについて学ぶ。
9	業界講話④	映画、ドラマについて学ぶ。
10	業界講話⑤	専属について学ぶ。
11	業界講話⑥	専属について学ぶ。
12	大学とのコラボ企画①	デザインを共有し、よりクオリティを高める。
13	大学とのコラボ企画②	トータルデザインを想像し、ヘアメイクへ落とし込む。
14	大学とのコラボ企画③	時間内にもモデルを仕上げる速度と完成度を高める。
15	定期試験	大学とのコラボ企画フィードバック

科目名 (英)	ビューティ技術論 I Beauty technical I	年次	1	実務経験	担当	小泉哲郎
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	有		
		単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術を学ぶ。					
到達目標	自分の想いをデザインを通じて他者へ伝えることができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style	事前事後 学習と その内容				
教材						
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	アーティストの技術を学ぶ④	プロの技術を身に付ける。 活躍するプロの講話から自分のキャリアプランを考え立てることができる。
2	アーティストの技術を学ぶ⑤	プロの技術を身に付ける。 アシスタントが求められるマネジメント能力とは何かを考えることができる。
3	アーティストの技術を学ぶ⑥	プロの技術を身に付ける。 失敗した時に必要なセルフマネジメント能力とは何かを考え、行動に変えることができる。
4	アーティストの技術を学ぶ⑦	現場から求められるヘアメイク像、自分の理想とするヘアメイク像を明確にすることができる。
5	アーティストの技術を学ぶ⑧	プロの技術を身に付ける。 プロになる為のフローを知る。
6	トップサロンゼミ②	最前線で活躍するヘアメイクアーティストからのデモンストレーションと業界講話
7	プレゼンテーション①	アーティストの技術、知識、空間づくりを学び、グループでプレゼンテーションをする。
8	撮影対策①	デザインを想像する
9	撮影対策②	デザインを創造する
10	撮影対策③	デザインを平面に起こす
11	撮影対策④	デザインを立体にする
12	撮影対策⑤	デザインをヘアメイクにおこす。
13	撮影対策⑥	空間を演出する。
14	撮影対策⑦	制作する
15	撮影フィードバック	コンテストでのデザインを発表、共有する。